

韓国語の「다는」構文の文末機能－日本語との対照を通して－

日本語と韓国語には引用を表す表現形式が複数存在する(金 2009, 野間 2009)。その中でも「文末」に現れる引用形式(例:日本語の「って」「だと」、韓国語の「-고 (-ko)」など)は、話し手の様々な主観的な態度を表すマーカーとして発達していることが知られている(Suzuki 2007, Sohn 2007 など)。

本研究では、韓国語の文末に生起する引用形式「-tanun」の用法を取り上げ、その語用論的機能を明らかにするとともに、それに類似している現象として、日本語の「みたいな」構文と対照分析を行うことを目的とする。

韓国語の「-tanun」は、平叙文の終結語尾「ta」と現在連体形「nun」から成る形式で、もともと文中において、他者から得た情報などを引用し、後続する主名詞を修飾する機能を果す(1)。しかし、近年インターネットなどのメディアの発達に伴い、個人のブログ、掲示板などにおいて、後続名詞を伴わず、文末の位置に「tanun」が単独で文を終結している用法が観察される(2)。

(1) Sincongphulluw hwanca-ka kupcunghay-ss-ta nun nyusu-yess-ta.
新種フルー 患者が 急増する-過去-終結語尾-連体形 ニュース-過去-終結語尾
「新型インフルエンザ患者が急増したというニュースだった。」 <<http://fendee.egloos.com>>

(2) <友達の息子の写真を見て、それに対する(書き手の)レスポンス>
Aysekhakeyto... hyengpwu nwun-i the yeyppu-tanun...ㅋㅋ [φ]
残念ながら 義兄 眼-が もっと かわいい-TANUN
「残念ながら、義兄の眼がもっとかわいいという(笑い絵文字) ...」 <www.cyworld.com>

本研究では(2)のような「tanun」の文末用法に着目し、暫定的に(i)「書き手の経験(出来事)の引用」(ii)「第3者(「もの」も含めて)に対する書き手の認識(判断、思考)の引用」(iii)「書き手の意志の引用」の3つに分類した。さらに、これに類似した日本語の現象として、「みたいな」構文(Fujii 2006)と対照を行った結果、両者は本来、文中において連体修飾の機能を果していたものが、文末の位置に「連体形止め」で単独で生起し、話し手/書き手の様々な「主観性」を表す語用論的機能を獲得している点では共通するが、(I)「tanun」は実際の会話よりは「書き言葉」を中心に、「みたいな」は書き言葉のみならず、話し言葉においても生産的に使用されている点、(II)「tanun」で表される引用内容は主に「書き手」によるものであるのに対して、「みたいな」は「話し手」および「聞き手」の実際の「発話」も引用することができるという相違が見られた。

参考文献

- 金珍娥 (2009) 「日本語と韓国語の文末における緩衝表現」『朝鮮学報』第213号, p.1-79. 朝鮮学会
野間秀樹 (2009) 「引用論小考」朝鮮半島のことばと社会『油谷幸利先生還暦記念論文集』油谷幸の利先生還暦記念論文集刊行委員会 (編). 明石書店, p.16-39
Fujii, Seiko. 2006. Quoted thought and speech using the *mitai-na* ('be like') noun-modifying construction. *Emotive Communication in Japanese*. Satoko Suzuki (ed.), Amsterdam/ Philadelphia: John Benjamin, 53-96.
Sohn, sung-ock (1996). On the Development of Sentence-Final Particles in Korean, *Japanese/Korean Linguistics* 5, Noriko Akatsuka et al (eds), p.219-234. CSLI:Stanford.
Suzuki, Satoko. 2007. Metapragmatic function of quotative makers in Japanese. *Metapragmatics in Use*, Wolfram Bublitz et al (eds), p.72-85. John Benjamins.